



防災訓練

筆者が住む箕面市では、毎年1月17日に、全市一斉防災訓練が開催されます。小学校単位に組織された防災委員会が主体となる、地域の訓練。それを市内一斉に実施します。

安否確認：無事を知らせる黄色のタオルを外から見える場所に掲示。それを自治会経由で地域防災委員会に集約。

避難道路確認：避難所までの道路の危険箇所を確認。

そのほかにも、防災クイズラリー、炊き出し訓練、防災倉庫見学、放水訓練など盛りだくさんです。

今年には阪神淡路大震災から20年目の節目。日曜日と重なったので、例年以上に力が入った訓練でした。

訓練会場で2つのことを知りました。まず第1は、食育を目的に小学校の校庭につくられた竈。子どもたちと一緒に野菜をつくり、それを料理するためにお父さんたちがつくった竈。つくったのはカレーか、それとも豚汁か……。それが炊き出し用として活用されています。食育の活動が、副次的に地域の防災力を高める。地域をよくするための人のつながりや設備・資材が、いざという時に地域の防災力を支える。そう実感できる竈でした。

第2は、MLIタッチメガホン。中国語、英語、韓国語、日本語の4言語で災害情報を484種類伝えることができる優れたものです。操作はタッチパネルをさわるだけ。10時間の連続放送が可能なので、人が逃げても放送を継続で



中嶋哲夫の「人事も歩けば」



▲4言語で災害情報を伝えることができるMLIタッチメガホン

きます。多数の外国人が、東日本大震災時に情報不足で困られたのを見て開発されたとのこと。大学や駅、大規模小売店など、外国の方が集まれる場所では必須の道具ではないでしょうか。開発されたのは札幌にあるエジソンハードウェア株式会社。社員7人のメーカー向けシステムソリューション会社です。創立30年近い企業だから、ベンチャーとは言えないかもしれませんが、ホームページを見るとベンチャー企業の雰囲気。その企業が専門外と思われる消費者向け商品を作っています（販売網などはお持ちではないでしょう）。東日本大震災に企業として向かい合い、自分たちがやれることとして取り組まれたのでしょうか。

小さな動きが少しずつ社会を変えていくことを実感する防災訓練でした。

(MBO 実践支援センター代表)